

常歩無限

第8回

～滝上高校の軌跡～

常歩無限く滝上高校の軌跡く
第8回は、滝上高校公務補の小松田 孝幸さんに思いを綴って頂きます。

滝上高校 21 年生の小松田で
す。旧校舎でなんとか・・・？ 卒業

させてもらい現校舎の建て替えの二期工事時に旧校舎の解体をしながら基礎工事をして、グラウンドの土を運び、新校舎建築に携わり、縁があつて、公務補として採用され、あと一年少々問題を起さないと閉校と同時に定年を迎える予定になつており、人生の大半を滝上高校で過ごさせていだいております。

採用になつた年から、見学旅行での芝桜配布が始まりました。公立高校では珍しい給食に取り組み、普通科男女共学で家庭科の授業、そのなかでの学校農園で育てた野菜をつ使ったカレー給食の日、デザートも生徒の家の牛乳で作ったヨーグルトなど。学校祭では野菜の一夜漬け

やら、山に行つて生徒をクレーンで吊りあげて採つたさくらんぼを販売したり、手打ちうどん、ラーメン等の手伝いをさせていただき、一緒に学校祭を楽しませてもらいました。



↑ 現在のよさこいと行燈行列の前は仮装行列が学校祭の名物的な出し物だった（平成14年の写真）

若いスタッフが多くて、生徒と一緒にになり切磋琢磨しながらの学校生活は他校の職員から羨ましがられるほどでした。滝上町に入植した先人達が子孫のために、地域の文化のために建てた高校がなくなるということは誠に残念なことだと思

いますが、滝上だけでなく全道、全国に広がりがつつある傾向であり、こんな時代の流れにいち早く乗らなくてもいいのになあと思うのは私だけでしょうか。

最後の卒業生となる事を自ら選んで来てくれた生徒達に少しでも楽しく最後の卒業生として誇れるような最後にしてあげたいと思う者の一人として大声で叫ぶ独り言でした。



当時の生徒たちがくれた遠足の写真